Vol.02　メジャースケールの 1 オクターブのブロック　～その 2～

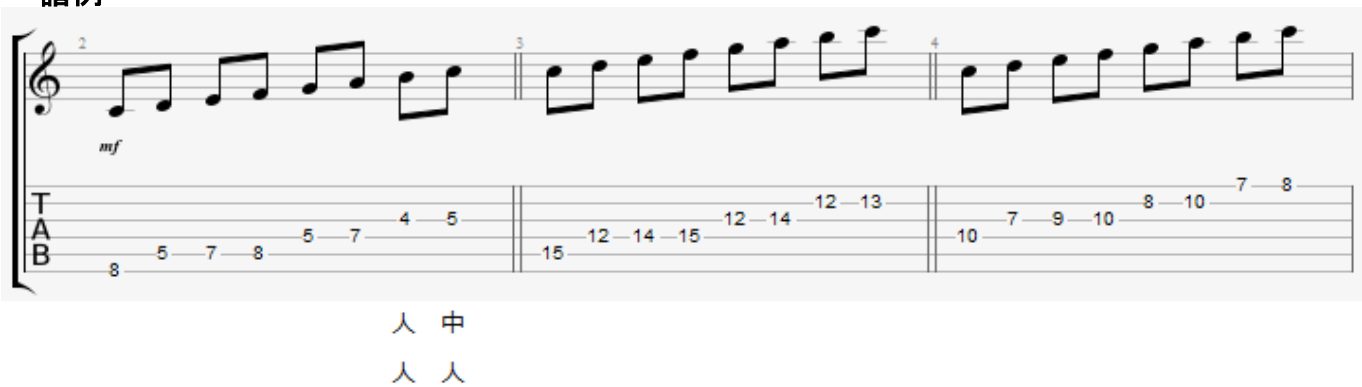
それでは、vol.02、始めていきましょう。

前回に引き続き、メジャースケールを 1 オクターブの範囲で弾いていくのですが、見るブロックが違います。

今回の練習譜例では、トニックに小指を置いてスタートします。

こちらの譜例も、各小節のフレーズを繋げて弾く必要はありません。

譜例



1 小節目の 4 拍目の指使いは好きな方で構いませんが、後々の事を考えると、両方出来た方がいいですね。

(※人→人はスライドでも、パッと押さえ変えるのでも、どちらでも OK です)

2 小節目のフレーズは、オクターブ下げると、解放弦を使った、おなじみの「ドレミファソラシド」です。

これも前回と同様、各パーツの視覚的な音の並びとインターバルを把握します。

トニック(P1st)の弦は 1 音しか弾かないのでそれでいいとして、低い弦から順に、

・2 ー 3 ー 4、(M2nd－M3rd－P4th)

・5 ー 6、(P5th－M6th)

・7 ー 8(1)、(M7th－P8th(tonic(P1st)、octave))

となっています。ここでも、2～3 弦間で 1 フレットずれる感覚を掴んでおきましょう。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

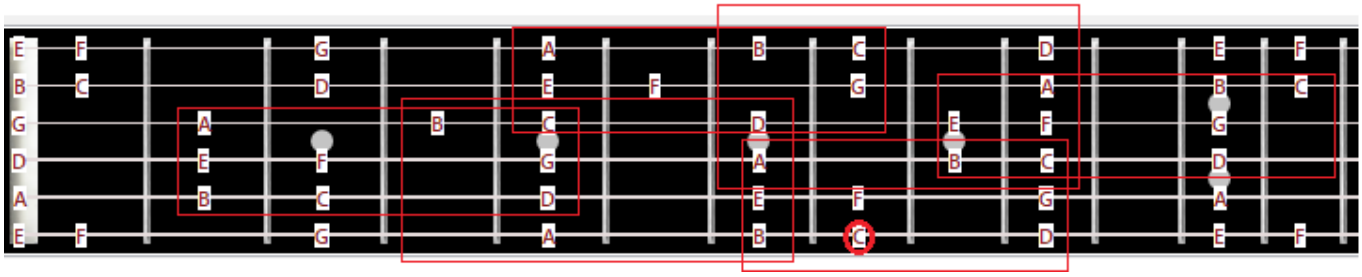
これらのブロックは、ペンタトニックの代表的なポジションとも一致し、フィンガリング的にも、ギターではかなり演奏しやすい音の並びになっています。
(※どのペンタトニックのポジションと一致するのか？確かめてみて下さい)

さて、実は、今回と前回(vol.01)の譜例を合わせると、これだけで、指板上のメジャースケールポジションの 9 割くらいをカバーできてしまいます。

基本的にトニックからトニックへ進んでいるので、1 オクターブ上がったら、またそこのトニックから次の(他の)ブロックに進めますよね。

この組み合わせで、指板上のほぼ全ての方向へ行けるので、各ブロックを繋げて、上がってみたり、下がってみたりを試してみて下さい。

例えば、6 弦 8 フレットの C 音からスタートして、その付近で見るならば、イメージとしてはこんな感じですね。



この様に、ブロックの移動を繰り返していくと、上下左右、大体の方向に進めます。

そしてそれが結果的に、メジャースケールの全ポジションと被っているので、効率よく覚えられる、と。

個人的な感覚としては、これらの 1 オクターブ・ブロックの練習をすると、アタマで覚えるのはもちろんの事、手が勝手に音の配置通りに動く様な実感があります。

「トニックを起点に、どう音が配置されているのか？」を手が覚えていて、手元(指板)を見なくてもスケールポジションが分かる感じですね。

こうなって来ると、他の事に意識を割けるので、プレイも安定してくるでしょう。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved